

全工期無災害表彰式を行いました。

事業場名 株式会社ナカノフード建設 東京本店
現場名 株式会社ウィッシュボン幸浦工場 建設事業
工事概要 地上4階建て S造
建築面積 546.84 m² 延床面積 1998.69 m²



全工期無災害記録証を受ける様子（右 株式会社ナカノフード建設 所長 高井氏）

“安全を自分事化する”ための現場づくり

「現場で安全意識が低下する最大の理由は“慣れ”と“他人事感”です。
そこで私たちは『自分事化』を促すコミュニケーションを徹底しました。」

取り組みの中心となったのが、「一人 KY(危険予知)」の習慣化。

朝礼で全体 KY を行うだけでなく、作業に入る直前に「今の作業の危険は何か？」を一人ひとりが数秒考えるよう声掛けをしました。

この「自分で考える」という行為が、安全意識の基盤になると考えています。

形骸化を防ぐための工夫 —— “空打ち KY”をなくす

「朝礼で話を聞いたことで満足してしまい、
“指を指すだけで頭は動いていない”——いわゆる 空打ち KY に陥りがちです。」

そのため、KY の形だけを追わせないよう、
「今どこに挟まれそうか？」
「何が落ちてきそうか？」
「どこが滑りやすいか？」
と、より具体的に問いかける工夫をしたとのこと。

「負担感を与えず、自然に危険を考えられるような声掛けを続けることで、徐々に“自分で危険を探す目”が育っていきました。」

無災害につながった“危険感受性を高める環境作り”

「全工期で無災害を達成できた理由は、危険に対する感受性を高める問いかけと、コミュニケーションを軸にした環境づくりにあると考えています。」

従来ルール遵守に加えて、

- 作業前の一人 KY
- 具体的な危険を考える声掛け
- 現場の空気づくり
- 作業者と管理者の双方向コミュニケーション

など、“現場全員で安全を考える文化”が育ったことが無災害につながったといえます。

今後の目標 ―― 安全文化をさらに高めるために

「今回の表彰は本当に光栄です。この経験を糧に、現在施工中の作業所においても、より高いレベルの安全衛生管理を実現していきます。」

今後も一人ひとりの危険感受性を高め、「誰もが安全に働ける現場」を継続してつくっていくことが目標です。